

令和3年度 長崎県立中五島高等学校 学校評価表（自己評価）

<p>学校教育方針</p>	<p>1 一人ひとりを大切にする教育の推進 2 郷土愛をはぐくむ教育の推進</p>
<p>学校経営方針</p>	<p>1 生徒、保護者、職員の全てにとって魅力ある学校 2 地域から信頼される学校 3 さまざまな活動を通して、「生き抜く力」を身に付けられる学校</p>
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>1 成果 (1) 広報活動 ・広報委員会が中心となって、月1回発行の学校だよりを充実させた。 ・学校ホームページの更新は遅れることなく行われた。 (2) 進路指導の充実 ・就職内定率100%を達成した。 ・進学についても、大学、短大、看護学校、専門学校等、志望先を全員が達成できた。 (3) 授業の工夫・改善、通級指導 ・チャレンジ授業は全員が実施し、一定の成果を得た。 ・研修会や学年会、授業における実践により、通級指導がかなり進み、生徒の困りの解消につながりつつある。 (4) 生徒指導と生徒会活動 ・問題行動の発生の防止や、的確な対応については十分取り組みができています。 ・身なりに関しては、年間を通して指導を行った。本校生らしい端正な身なりの指導が行えた。 ・生徒会による校内生活の工夫など、提言がなされた。その結果採用されたものもある。 (5) カウンセリングの充実 ・いじめ・悩みに関するアンケートを月に1回行った。いじめ事例や問題行動の早期発見に大いに役立ち、生徒指導を効果的に行うことができた。 (6) 生徒募集について ・新入生の増加により、数年ぶりに生徒数が増えた。</p> <p>2 課題 (1) 基礎学力の定着 ・生徒間で家庭学習時間に大きな差がある。家庭学習のさらなる習慣づけが必要である。 (2) 特別支援教育の充実 ・通級指導はかなり進んでいるが、今後も個別の指導計画等を生かした継続的な指導が望まれる。 (3) ICT教育の推進 ・一人一台パソコンを活用した授業の工夫やICT関連業務の分担・整理が必要である。 (4) その他 ・島内の中学生数の減少が顕著であるため、生徒募集のさらなる工夫が必要である。</p>
<p>本年度の重点努力目標</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立 (1) 挨拶の励行、端正な身なり、時間厳守の徹底 (2) 生命尊重、いじめ防止、健康に対する意識高揚 2 学力の伸長 (1) 学び直し、個別指導による基礎学力の定着 (2) ICT機器の活用とAL型授業による能動的、主体的な学習の推進 3 「一人ひとりを大切にする教育」の推進 (1) 生徒、保護者との対話重視による信頼関係の構築 (2) 本校の実態に即した特別支援教育の在り方の研究と確立 4 「キャリア教育」・「郷土愛を育む教育」の推進 (1) 3年間を見据えた「総合的な探究の時間」の指導体制の構築</p>

	<p>(2) 公務員希望者指導の研究</p> <p>(3) 外部資源活用による視野の拡大、社会人としての基盤の涵養</p> <p>(4) ボランティア活動、地域活動への積極的参加</p> <p>5 志願者数増に向けての取り組み</p> <p>(1) 「学校だより」やHPによる定期的かつ細やかな情報発信</p> <p>(2) オープンスクール、学校説明会の形態と内容のさらなる充実</p> <p>6 職員研修の充実 ～学び続ける教員～</p> <p>(1) 全教員による特別支援教育を視点にしたチャレンジ授業の実施</p> <p>(2) 校内、校外での研修への積極的参加</p> <p>(3) 「学びの基礎診断」、「大学入学共通テスト」等の研究</p> <p>7 教育環境の整備</p> <p>(1) 安全安心な教育環境の構築</p> <p>(2) 施設設備の点検・整備・美化の励行</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1. 学校運営について

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	中間	総合	成果と課題
学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標を設定し、教職員間の理解のもとに教育目標の具現化を図る。	前年度の教育課題や生徒の実態を踏まえた適切な重点目標を設定する。	—	—	前年度の学校評価の結果を踏まえ、適切な目標が設定された。
	運営方針の明確化とその実践	学校運営方針を学校内外に明確に示し、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育課題を明確にし、各教職員が運営方針を意識して教育活動を展開すると共に、教育目標や経営方針を生徒・保護者・地域に説明する機会を設ける。	—	—	職員や生徒は運営方針の理解が進んだ。保護者や地域にも浸透しつつあるが、今年はコロナの影響で十分とは言えない。
学年学級目標	学年学級目標の具現化	学年目標に沿った経営を行う。	学年・学級目標の教員・生徒への浸透を図り、目標達成のために教育活動を展開する。	—	—	各学年、工夫を凝らした経営を行っている。

2. 教育活動・教育環境・その他について

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	中間	総合	成果と課題
教務	学習環境の整備と充実	校務の円滑な運営に努める。	各分掌・学年との連携を図りながら、学校行事のスムーズな運営に努める。また、学校教育目標を基点に全ての教育活動を繋げて構成できるよう、行事の見直し・精選も行う。	4.0	4.0	昨年度から始めたポータルサイトの朝会連絡メモ及び週計画は体制が確立し、朝会の効率化や連絡の徹底に役立っている。 部会において、各自の仕事の見える化ができ、業務改善につながった。
			授業時数の確保と出席率の向上に努める。また、成績処理・出欠統計など事務処理の効率化に努め、点検作業を正確に行う。	3.8	4.0	
			快適な教育環境の整備に努める。また、週案や朝会連絡を活用し、当面の行事予定や日程、日課変更などの	4.0	4.0	

			周知を徹底する。			
	地域への発信とPTA活動	信頼される学校づくりに努め、積極的に広報活動を行う。	H P (全職員担当制)や中高だより(広報委員会)の作成を統括し、本校の活動に関する情報を充実させ、中学校や保護者・地域に情報を発信する。	4.0	4.0	学校ホームページの更新を定期的に行うことができた。
オープンスクールや学校説明会等を通して、中学校(生徒・保護者・教員)への広報に努める。また、地区別説明会を行い、地域の方々に中高の雰囲気や現状を伝える。			4.0	4.0	学校説明会や地区別説明会、オープンスクールやH Pを通して中高をアピールできた。しかし、募集定員の半数を超えることはできなかった。今後も時間をかけて地道に取り組む。	
各行事や発表会など、保護者や地域の方々に来校していただく機会を設ける。特に、PTA 総会と報告会を合わせて出席率 90%以上を目指す。			4.0	4.0		
研修	研修の充実	生徒・職員の研修を充実させる。	I C T 関連(一人一台端末、EdTech 含む)や観点別評価、特別支援等に関する職員研修を行い、生徒の学びの質を変えるための方策を検討する。	4.0	4.0	観点別評価、EdTechを含むI C T、新教育課程への対応など、急務であったものは形になった。
			各学年や他分掌との連絡を密にし、LHR や総合的な探究(学習)の時間などの企画・運営がスムーズに実施されるように努める。	4.0	4.0	総探の時間や心の教育の時間など、確実に確保し、本校独自の教育を実践できた。
			平和学習や人権学習、心の教育の時間等を充実させ、生徒の豊かな人間性を育てる。	4.0	4.0	
図書	図書館活動の充実	読書活動を推進し、読書に親しむ姿勢を育てる。	生徒主体の図書委員会活動を支援し、魅力的な図書館づくりを行う。また、図書館便りを 10 号以上発行する。	4.0	4.0	図書館 P O P が充実している。
			朝の読書を活性化し、読書の習慣をつけさせ、読書の楽しさを実感させる。また、新鮮で魅力ある本を選定し、年間 3 冊以上の貸し出しを目指す。	3.7	3.8	図書館の利用は良好であったが、貸出冊数は生徒数減もあり、今ひとつであった。
			各学年や他分掌との連携を強化し、図書館の積極的な活用を推進する。	3.3	3.4	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	誠実な生活態度を持ち、健全で気品ある中高生の育成を目指す。	誠実な生活態度を持ち、健全で、気品ある中高生の育成を目指す。	3.6	3.8	生徒に寄り添った様々な支援が実施できた。
			携帯電話・スマートフォンの利用に関する情報モラル指導に取り組み、問題発生防止に努める。	3.4	3.8	生徒指導事案については、担当・学年間で協力し、迅速かつ丁寧に対応する
			保護者や地域社会との連携を強めるとともに、情報交換を図り、指導に活用する。	3.8	4.0	

			問題行動の発生防止や、それに対する的確な対応と、再発・拡大防止に努め、生徒の健全な育成を推進し、郷土愛を育む。	3.8	4.0	ことができた。
	生徒会指導の充実	生徒の自主的・積極的活動を推進する。	各種生徒会活動や専門委員会、部活動などの活動等を通じて、自ら考え判断し、責任を持って行動できる生徒を育成する。	4.0	3.8	生徒会として2年生を中心に、自発的に考え、活動が進んでいる。行事に対する生徒一人ひとりの動きが一年を通してよくなってきた。
朝会や外黒板、掲示物等を大いに利用し、積極的に学校行事に参加する精神を喚起する。			3.7	3.4		
募金活動や清掃活動、ボランティア活動などへの積極的参加を奨励し、地域に根ざした生徒会の活動を推進する。			4.0	3.8		
生徒支援	カウンセリングの充実	豊かなコミュニケーション環境を整え、生徒の悩みや困りに気づき、支援する。	日常的に生徒とのコミュニケーションの場を設定し、必要に応じて個人面談を行う。	4.0	3.8	SSWと協力しながら、さまざまなケースに対応できた。 生徒支援のしおりもさらに使いやすいものに改編中である。
			いじめ根絶集会の実施によるいじめ防止に関する啓発や、生徒アンケート等を活用した悩みや困りの早期発見・早期対応に努める。	4.0	4.0	
			保護者との連携を深め、全職員で生徒情報を共有し、一貫した指導支援を行う。	4.0	3.8	
	各学年会と連絡を密にし、必要に応じてケース会を開き、職員間で情報共有し具体的支援につなげる。	3.8	3.8			
	カウンセリングやストレスマネジメントに関する情報発信に努め、教育相談を充実する。					
特別支援教育の充実	個別の教育的ニーズのある生徒に適切な指導支援を行う。	実態把握を行い、個別の指導計画を使って支援の方向性を共通理解して指導支援する。	4.0	4.0	個別の支援計画等を改善し、入力や活用のしやすいものにできた。次年度以降さらに活用していく。	
		個人カルテを活用しながら、家庭や関係機関（医療・福祉・労働）との連携を図る。	3.8	4.0		
保健	保健管理	生涯を通じて心身の健康を保持できるよう、生徒の自己管理能力の育成を図る。	健康診断を通して健康状態を知らせ、事後措置を徹底し、個別指導を行う。	4.0	4.0	保健だよりについては、生徒が作成する機会を設けたが、内容的にも教育的にも大変よかった。
			健康観察に努め、健康上問題のある生徒の把握をし、全職員に共通理解を図った上で、生徒の健康状態に応じた適切な行動がとれるようにする。	4.0	4.0	
			感染症の早期発見に努め、感染症予防対策を実施し、その方法について理解を図り適切な行動が取れるようにする。	3.8	4.0	

			保健だよりの発行（11回）、及び保健に関する啓発研修を実施する。	4.0	4.0	
	安全管理	救急体制の充実を図る。	緊急時の連絡系統・対処法の確認をし、職員の共通理解を図る。	3.2	3.4	緊急時のマニュアルを次年度改善し、周知したい。
健康上の問題がある生徒がいる場合、職員間で情報を共有し、緊急時に備える。			3.6	3.8		
避難訓練を実施し、避難ルートの確認と緊急時の対応について学ばせる。			3.8	4.0		
環境衛生管理に努める。		環境衛生諸検査を適切に実施する。	4.0	4.0	必要な検査は滞りなく実施できた。	
	施設・設備の定期検査を学期ごとに行う。	4.0	4.0			
美化	潤いのある生活環境の整備	学校環境の美化に努める。	掃除用具の在庫確認、および各掃除場所の道具の点検・補充を行う。	3.6	4.0	人数が少ない中、各場所を積極的に清掃できていた。
			清掃活動実施計画を作成し、学校環境美化の意識を高める。	3.4	3.8	
進路指導	進路指導の充実	家庭学習時間を増加させる。	「生活・学習の記録」を利用して、家庭学習時間の調査・集計を行い、生活習慣や学習習慣の個別指導への手立てを行う。	3.0	3.3	家庭学習時間等の定期的な集約は確実に実施できたものの、学習時間そのものは生徒間で個人差が大きかった。学習時間が少ないということを実感させる取組を工夫したい。
		学び直しの組織的指導体制を確立する。	計画に沿って義務教育段階の学び直しを行う。また、自立活動との連携を図りながら、多くの教師が関わることで、生徒の意欲向上と教師の情報共有を図る。	3.3	3.8	
		学力の伸長を図る。	補習や模試を計画的に実施し、学力の把握に努める。また、結果の分析・検証を行い、生徒にフィードバックすることで、個々に応じた学習指導を行う。	4.0	4.0	
		学校全体で連絡を密にし、効果的な指導を行う。	WEB環境を利用しながら各種研修会に参加し、積極的に情報を収集する。また、得られた情報を教員間で共有し、生徒にとってよりよい進路指導を行う。	3.3	3.8	
		外部機関や地域との連携を密にし、生徒の進路意識を高める。	年間計画に基づき、校内外の進路行事に積極的に参加させ職業観の育成を図る。また、キャリアサポートスタッフと連携しながら、職業観の育成を行う。	3.8	3.8	
		生徒・保護者に対して積極的な情報発信に努める。	進路指導部員が進路に関する研究を積極的に行い、効果的な情報を担任・保護者・生徒に提供できるようにする。	3.3	3.8	

		進路決定100%を目指す。	進学希望者の全員の合格を目指し、学年・教科担当と連携し、効果的な受験指導を行う。また、補習及び個別指導の充実を図る。さらに、「大学入学共通テスト」等の情報を収集し、指導体制を確立していく。	4.0	4.0	3年生の進路実現に向けて、生徒一人ひとりに寄り添った指導ができていた。
			就職希望者の第一志望への合格を目指し、学年と連携をとり、生徒一人ひとりにあった進路指導を行う。公務員指導に対しては、指導体制を確立し、低学年時期から継続的に指導する。また、面接指導計画を立案し、全職員での面接指導の充実を図る。	3.8	4.0	
事務室	教育環境整備と事務運営	安全・安心な教育環境の整備に努める。	毎月の見回りを実施し必要な個所は補修を行う。	3.9	3.6	安全点検結果から各所の補修、交換、改善に努めた。コロナに伴う機器の設置も実施した。校地の除草作業等の徹底もできた。
			学期ごとに実施する安全点検で挙げられた項目について必要な措置を行う。	3.5	3.6	
			新型コロナウイルス感染症対策を徹底するため関係職員と連携をとりつつ必要な物品を整備する。	3.9	3.4	
		適切な会計事務を徹底する。	関係法規や事務処理マニュアルに則った事務を徹底する。	3.5	3.4	日頃から適性管理に努めている。
			定期的に事務室で研修を実施し、事務処理ミスの防止を図る。	3.5	3.0	
		省エネ・経費削減の推進を図る。	デマンド装置を活用した節電等の実施により、昨年度と同水準の電気使用量に抑える。	3.7	3.4	電気代とコピー・印刷用紙については増加傾向である。学校全体における協力を依頼して節約に努める。
			両面印刷、裏面使用により用紙の使用枚数の削減を図る。	3.7	3.6	
			ミスプリントを削減しインク・トナー代の削減を図る。	3.5	3.6	

【総評】

評価の結果 (課題と問題点)	<p>生徒・保護者のアンケート結果における全体平均は昨年度比で、生徒が0.2上昇、保護者は変化なしであった。評価平均が3.5以上の項目数は昨年度比、生徒で8→13と増加したが、保護者は6→1と減少した。多くの項目で、生徒・保護者ともに評価・満足度が高く、評価が大きく下がった項目は昨年度に引き続き見当たらなかった。職員による評価も総じて高いが、課題や今後取り組むべき内容として以下があげられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人一台端末やEdTech活用を含むICT教育は大きく前進した。また、次年度以降始まる新課程や観点別評価の準備も計画的に実施できた。 2. 3年生は全員が進路実現できた。就職も進学も100%、国公立大学も2名合格した。 3. 本校独自の取組であるパブリックワークや模擬会社を含む商業教育は昨年度以上に体
-------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>系的に実施でき、本校のふるさと教育としてまとめることができた。</p> <p>4. 3学年でのコミュニティ活動による観光マップの提供、模擬会社の利益を用いた町への寄付や子供向け絵本の制作・寄贈など、地域に貢献する活動を実践し、生徒の郷土愛の醸成、自己肯定感の向上につながった。</p> <p>5. 通級指導、個別の支援計画の工夫やS S Wと連携など、生徒に寄り添った計画的な支援が実施できた。</p> <p>6. 家庭学習時間等の定期的な集約は確実に実施できたものの、学習時間そのものは生徒間でまだまだ個人差が大きい状態である。授業や課題の内容などのさらなる充実を図ることで、生徒の個々の学力を高めていきたい。</p> <p>7. 学校説明会や地区別説明会、オープンスクールやHPを通してアピールをしてきたが、入学定員の半数を確保することができなかった。</p>
<p>次年度の改善や取組</p>	<p>1. 一人一台端末を含むI C Tを活用した教育や授業改善をさらに進め、学力向上に努める。また、新教育課程への確実な移行と観点別評価により、生徒の学びの質を変えるための方策を工夫して実践していく。</p> <p>2. 総合的な探究の時間（白魚学・パブリックワーク）や商業実践教育など、地域に根差した主体的な取組を進め、コロナ禍においてもできる活動を実践していく。</p> <p>3. 生徒アンケート等を活用した悩みや困りの早期発見・早期対応に努めるとともに、個別指導や学び直しによる生徒の学習意欲の向上を図る。</p> <p>4. 生徒主体のオープンスクールや学校説明会、P T A活動、地区別説明会等を通して、保護者や地域の方々に中高の教育活動や目指すものを周知し、生徒募集につなげていく。</p>